

よくある質問

Q ベゴニアが溶けてしまった。

→A ベゴニアは気候条件により、葉やけ、ムシが発生します。葉やけ、ムシが発生し始めたらそのままにせず、早めに刈り込みをするのがお勧めです。
株元に芽・葉が残っていれば、おおよそ1ヵ月ほどで大株になります。
発見が遅く、茎だけになってしまった株は、かわいそうですが、廃棄してください。

Q マリーゴールドが倒れて腐ってしまうが。

→A 倒れてしまったマリーゴールドは刈り込み、整枝などにより、土にふれている部分をなくすようにしてください。
特にゲリラ豪雨など強い雨にあたると、植分体や花が傷み病気も出やすくなるので、強い雨のあとは薬剤散布をすると良いです。

Q プランターの土は再利用できますか？

→A できます。ブルーシートの上などにプランターの土を押し開けて、古い根や植物を取りのぞき、気温の高い時期なら、土を黒いごみ袋に入れて口をしぼり、日向に置いておくと高温になり、中の細菌が死滅する。
ホームセンターなどで売っている土壌殺菌剤で薬剤処理する方法もある。（※この場合必ずマスク、手袋をはめ民家の側ではおこなわないでください。）
新しい培養土やリサイクル材、元肥を混ぜて再利用の場合、使用していた培養土の種類により再生方法、割合などが大きく異なる為、近くの園芸家に土を持っていき見ていただくことをお勧めします。

Q・植えつけの時期は？

→A 遅霜に気をつけ、5月20以降に植え付ける。
ただし、日々草などの高温植物は地温が15°以上になってから植えると、植え付け後の生育不良がおこらなく、健全に生育します。

Q・長雨時期の注意点は

→A 多くの花は水がかかると傷みややすくなります。水やりも通常は株元に向けて注ぐのが

基本です。傷んだ花などは早めに取り除きます。

Q 苗を植え付ける時の水くれの方法は？

→A 苗を植えた後の水くれは植栽よりもかなり重要になります。

一度に大量に与えても、水が土の表面を流れてしまい、土にしみ込まないので、何回も繰り返して、たっぷりと水をあげてください。

水くれ後、必ず土を指で掘り、水がしみ込んでいる事を確認してください。（最低でも植えた苗の根鉢の底まで水がしみ込んでいる事）

これができていないと、根付くのがおくれその後の生育が悪くなります。

Q 水くれについて

→A 6月ぐらいに植え付けをした花壇では、花が根付いて成長しているので、気にする必要はありません。しかし、干ばつなどにより、夜もしおれている様であれば、翌朝たっぷりと水をあげてください。

高温多湿期の夕方から夜間の水くれは、ムシ病の原因になるのでさけましょう。

プランターの場合は全期間において土の表面が乾いたら鉢底からしみ出すぐらいにたっぷりあげてください。

水くれは病気を防ぐためにも朝がよいです。

Q 追肥の時期を教えてください。

→A プランターなら、植え付け後1ヵ月おきに10-10-10のIB化成がおすすめです（緩行性肥料）。花壇では、植え付け後1ヵ月～1ヵ月半後と8月下旬～9月上旬に化成肥料で、即効性肥料の場合、肥料やりを防ぐため窒素成分があまり多くなく（10以下）のものを選ぶとよい。

緩効性肥料の場合は、肥料やりが少ないので、窒素成分が14のものもおすすめです。いずれの場合も肥料ごとの施肥量を確認し追肥してください。

Q 除草について

→A 植え付けてからしばらくは、こまめに草取りや中耕しをして、苗が良く育つ手助けをする。花がある程度成長すると、株の周りが日陰になるので草が生えにくくなる。株元にワラや完熟バーク堆肥を敷くのも、雑草と乾燥防止の両方に効果がある。又野菜でも使っている発芽を抑える除草剤も効果があります

Q・土づくりについて

→A 良い土とは①空気を十分に含んでいること②水はけがよいこと③水もちがよいこと
花壇の土の状態を良く知って植物を植える準備として土づくりをします。
花壇にバーク堆肥や腐葉土などの堆肥と緩効性肥料をまき、耕してください。
(ひどく土が固い花壇には、何年も効力のあるバーク堆肥がおすすめです)
一年草と呼ばれる花の多くは、弱酸性を好む植物が多く、野菜の様に石灰を毎年使うのは、注意が必要です。
土がアルカリに傾くと新芽の黄化や生育不良の原因になる。
スギナなどの酸性植物が多量に増えている花壇以外では、石灰をいれない方がよい場合が多くあります。

Q. 花の病気や害虫の心配

A 主な病害虫と対策

病虫害	症状	対策
立ち枯れ病	葉が巻いて、水切れがおこりやすく、茎が倒れやすくなる	病株は株を抜き取り、処分する。 土壌に殺菌剤を散布。
ウドンコ病	葉などが白粉をまぶしたように白くなる。	カビの仲間。通気性を確保して予防。白くなった葉は取り除き殺菌剤を散布 絶滅は難しい。(ベンレートなど)
灰色カビ病	花や葉や茎に灰色の斑点ができて葉がへこむ	病気にかかった葉を処分、通気や風とおしをよくする。薬剤散布は雨の前後におこなう。
アブラムシ	樹液を吸いとられるので徐々に元気がなくなる	こまめに駆除する。 (株元にオルトラン・スミチオンなどをまく)
ダニ類	白粉のように小さく、葉の裏につきやすい	葉の表裏に水をかけたり、発病前に予防殺菌剤を散布し病原菌の侵入を防ぐ。 (ベンレート、オーソサイド、ダイセン) など
イモムシなど	葉など株全体を食いつぶす	見つけたら捕殺する。殺虫剤を散布。